

自 平成26年4月 1日  
平成26年度 ( ) 会務報告書  
至 平成27年3月31日

一般社団法人日本絹人織織物工業会

1. 会員異動

	本年度初	増 加	減 少	本年度末
会 員 数	34	0	0	34

2. 業務報告

(1) 一般概況

2014年の経済は、リーマンショックを乗り越え、東日本大震災からの復旧・復興を着実に進めているものの、製造業を取り巻く環境はきわめて厳しい状況が続いている。中小企業により構成されている多くの産地・地場産業は国際競争にさらされており、廃業や撤退が相次いでいる。一方、優れた技術により海外からも高く評価される企業が多く存在していることも事実である。

アベノミクス効果によりマーケットでは円高是正と株高が急速に進み、基本的には回復基調で推移しているが、消費税増税による家計消費支出の減退、地方経済立ち直りの遅れや中小企業施策の置き去りなどが要因となって、スローダウンしており先行き不透明な状況である。

円安は国内産業への回帰や輸出ビジネスの拡大につながる反面、過度な円安は原燃料、持ち帰り製品の急激な上昇につながり、特に産地の中小企業に大きな打撃を与えている。

絹織物業界においては、消費税増税前の駆け込み需要も若干見られたが、市場は低迷を続けている。生糸は、中国の労務費高騰や急激に進行する円安による価格上昇が生産コストへのしわ寄せを招いているが、価格へのコスト転嫁が進まず採算が悪化している。また、産地では後継者不足や織機の老朽化、部品・道具類の枯渇化が深刻な状況であり、その対策も急がれている。

このような状況の中、東京五輪開催、富岡製糸場の世界遺産登録の話題と相まって、絹織物と和装文化が注目されることが業界の原動力となり、需要増につながることを期待している。

平成26年（暦年・以下同）の化合織（長）織物の生産量は641,893千㎡と前年比3.5%の増加、輸出は430,193千㎡と前年比0.5%の増加、輸入は364,860千㎡と前年比4.2%の増加で推移した。

一方、絹織物の生産量は9,364千㎡と前年比6.9%の減少、輸出は5,125千㎡と前年比5.6%の減少、輸入は6,098千㎡と前年比8.5%の減少で推移した。

## （２） 主要問題

### ① 産地振興対策

一般社団法人移行後の平成24年度からは、公益目的事業計画に絹・合織織物の普及を目的とした「展示会開催等助成事業」及び「展示会出展支援事業」において広く事業実施組合及び展示会参加者を公募し、事業を実施している。

平成26年度の「展示会開催等助成事業」は全国39の産地組合から40件の申請があり、その事業内容は、展示会等28件、新商品開発事業等7件、広告・PR事業等4件、その他1件で事業総額281,435千円に対して、本会から198,140千円を助成した。

### ② 生糸・絹織物問題

生糸の輸入については、平成20年度から関税割当制度に移行したが、その適用期限が平成27年3月31日まで延長となり、平成26年度の繭及び生糸の関税割当枠は、798トン、生糸換算では13,300俵となった（平成26年4月1日付け25国際第1215号関税割当公表第68号の2）。本会関係は13組合33件で合計753トン、生糸換算では12,558俵の関税割当申請を行ったが、これは全体割当枠の94.4%であった。

平成26年（1月～12月）の生糸の全輸入実績は8,235俵、前年比88.2%と減少、絹燃糸の全輸入実績は、14,830俵、前年比93.6%と減少した。

### ③ 各種振興事業

#### （イ）人材育成事業

人材育成事業については、産地組合が独自に実施する海外研修事業等への助成を

行っているが、26年度はパリ、ミラノを市場調査した組合からの申請により、組合事務局役職員の渡航費等に対して助成を行った。

## (ロ) 需要振興事業

### 1) 海外展

一般財団法人織貿会館の助成を得て、7月22日～24日、ニューヨーク市のジャビッツ・コンベンションセンターにおいて開催されたテックスワールド・USAに出展した。米国北東部、東海岸地域で開催される国際見本市・織物素材展で、本会からは米沢、福島、亀田、石川の4産地組合4企業がシルク・化合織素材中心に350点（絹100点、化合織250点）を展示し商談を行ない、バイヤー・エージェント等の来場者数は60社だった。

また、9月15日～18日の4日間、パリ郊外のル・ブルジェにおいて開催された国際見本市テックスワールドパリに出展した。本会からは米沢、福島、桐生、石川の4産地組合4企業1団体がシルク・化合織素材中心に450点（絹150点、化合織300点）を展示し商談を行ない、ブースへの来場企業は70社を数えた。

参加企業はいずれも輸出実績は豊富であるが、日本の優れた絹・化合織織物素材を紹介し、訴求力を高め海外市場への販路開拓に務めた。

### 2) 国内展

全国の繊維産地・企業が一堂に集結する国内唯一の繊維総合見本市である「JFW-ジャパンクリエーション2015」は、11月5日～6日の2日間、東京国際フォーラムで開催された。

交通アクセスの良い同会場での開催も3年目となり、テキスタイル・ビジネス商談会「PTJ」との併催等の相乗効果もあり、多くの来場者を集め活況を呈した。都心にある立地の良さが、百貨店・専門店等の小売業関係者の増加が来場者の幅を広げた。

日絹ブースには、14産地組合から77企業が41小間のブースに出展し、昨年に続いて出展規模が拡大し過去最多となった。新規出展の2組合20社を含めて、各ブース内においては意欲的な出展者によるプロモーションと、来場者との活発な商談が行われた。

(ハ) 表彰事業

各産地組合及び関係団体においては、絹人織織物の需要開拓のため織物求評会・展示会等を開催しているが、平成26年度は4組合5関係団体10事業の優秀作品等に対して本会会長賞を交付した。

(二) 情報提供事業

日絹月報、月次統計データ、年次統計データ（年報）を引き続き作成した。

また、中国シルク原料（生糸）の安定供給を願う立場から、毎月、中国の蚕糸絹事情に関する最新情報「中国シルク情勢」の提供を行った。

④ 蚕糸功労者表彰受賞者

本年度における栄えある蚕糸功労者表彰受賞者の本会関係者は、次のとおりであり心よりお祝い申し上げます。

蚕糸功績賞      渡邊 正義 様      (丹後組合)

蚕糸功労賞      津田 克彰 様      (石川組合)

蚕糸有功賞      稲葉 道晴 様      (丹後組合)

⑤ その他

(産地間連携)

本会は、引き続き関東織物産地連絡協議会（米沢、伊勢崎、桐生、秩父、八王子、村山、十日町）及び全日本帯地連盟（桐生、西陣、博多）を通じて会員相互の情報を共有し、産地間連携を図った。

以上のとおり、平成26年度において事業を実施したが、繊維業界及び産地を取り巻く事業環境は極めて厳しい状況が続いている。

本会は、展示会、新商品開発、新市場の創出、人材育成など産地組合が行う積極的な各種事業に対して、引き続き支援して参りますので、会員各位のより一層のご理解、ご支援をお願いいたします。